

両神小森山林保護の経緯

私はかつて埼玉県生態系保護協会が主催した環境保護活動のフォーラムに参加したとき、パネラーを務めた日本オオカミ協会丸山会長の「頂点捕食者を欠く日本の山林問題」に共感し、その場で面会を求めて会員になった。以来10年になる。

そこで知った課題は、日本の山林が頂点捕食者オオカミの絶滅により、シカが増えすぎて、下草が皆無で裸地となった山林に降った雨水は、すべて表流水として流され地中深く浸透しない。黒土に覆われた豊かな山林からしか産まれないミネラルの豊富な“自然水”が今では極端に減少している問題である。

日本オオカミ協会が主催した、ドイツ東部ラウジッツの森にオオカミをたずねての視察団には、藤井 潔さんと共に参加しドイツの生態系復活の現況を学んだ。その後埼玉支部を結成し、2013年にはウエスタ川越で「日.米.独オオカミシンポ 2015:復活と保護」と題して300名限定のシンポジウムを開催した。今は協会の副会長を務めている。

埼玉支部長としても「山の豊かな林床を求めて」をテーマにして、10数回のオオカミ復活導入の講演を行ってきた。その間にも鹿を中心とした野生動物による被害は増加する一方で、政府.自治体には対処方針が定まっていない。

古来日本人が自然に棲み分けてきた野生動物と共存してゆくことは避けられない。そのために今なすべきことは何だろう。

私はその時の資料になる小規模な演習林を秩父に持ちたい、と思い続けてきた。

私自身の時間的な制約もあり今回は「直接的な効果が誰の目にも理解できる形」で、貢献したいと思っている。

両神山の一つの登山口である白井指口とその一帯300haを代々保有している、山中豊彦さんという山持ちの方がおり、昨年以来二度お目にかかった。この方は埼玉県生態系保護協会の堂本局長と親しくしている。

私に気に入った土地があれば、生態系保護協会との連携の上で譲ってもよい、ということになった。

そこで2021年9月28日午前10時、両神白井差にある山中さん宅をお尋ねした。私は久しぶりにナーゲルを履き山支度で下車した。山中さんは山岳救助隊のマークを付けたシャツを着ている。こしにはカラビナをさげ、これも山支度である。堂本局長も一緒に目的にしている山林を歩いてみた。

今は鹿による被害は想像を絶する。どこの山も下草は全くない。これでは定期的に起こる激しい長雨により、森を守る表土は流失する一方だ。ここの山林も既に多くの樹木が黒土を流され太い大きな根が露出している。

近年熊が里に下りてきて人間と接触し騒ぎとなっている。専門家は「今年はブナ、ミズナラの実が不作で少ないので、エサが不足し里に出没する」といつている。これが毎年繰り返されている。

私はこう考えている。

表土を奪われた樹木は、養分を含んだミネラル水を充分にくみ上げられないので、栄養不足になり実を沢山つけられない。主食のドングリなどの減少により、やむを得ず里の危険性を知らない若い熊が、手っ取り早い里に降りて来て、ひと手不足で放棄した農地のカキやクリなどを獲ることを覚えてしまう。熊が里に現れた姿を目にした日本人は、今にも襲われるかと騒ぎになる。これが実態ではないかと考えている。

その証拠に最近は“熊棚”を見ることがない。熊が木に登って辺り一面になったドングリなどをたくさん抱えて、ゆっくり充分食べるゆとりが無くなっているのではないか。メディアは山に実がない、としか書かない。根本的な課題は、林床を豊にして降った雨が地中深く浸透し、天然水を吸い上げた樹林が勢いを強め、沢山実をつけることだろう。それには、増えすぎたシカを適量に減らし、下草を豊富にしてシカの生息数を調整することが欠かせない。

長年オオカミ協会の役員を務める私としては、山林が持つ本来の魅力的な姿を再現したい、という願いを持ち続けてきた。

この度購入する 12,000 坪の山林の一部 1,000 坪の土地に、鹿除けの柵延べ 1,000m を造り、山を見回る山道もそれに見合う程度に造りたい。山頂までは見事な落葉樹林で、9 月末でも若緑の山林は魅力的である。小森川の流域にはオオヤマザクラの大木も生い茂る。かつてキャンプ場として町が整備した小森川の河畔は恰好のキャンプ地になる。イワナの姿を見せる小森川は、適度な淵、浅瀬、大雨ごとに移動する大岩など見応えがあり飽きない。

シカを完全に排除した山林は、急激に本来の姿を取り戻す。

埼玉県生態系保護協会は、毎年、春、秋に調査団を派遣して、生態系が回復する姿を調査し、その都度報告書を作成する。山中さんによると 3 年でカタクリは姿を見せる、という。これを 5 年～10 年と続けることにより、森の下草、藪は完全に姿を取り戻す。ブナやミズナラの実もたくさんなるので、熊を里で見かけることは減るだろう。但し喫緊な課題として“熊が人間を恐れる”ためには熊撃ちの狩猟者を増やす努力は欠かせない。

森の変化が顕著になった時、理想的な秩父の天然水を生み出すことが、一般市民に理解できることになる。こうして初めて過去に絶滅させたオオカミが果たしていた森での役割が理解される。

オオカミ協会に在籍して 10 数年、各地で山の頂点捕食者オオカミの果たす役割を講演してきた。だが日本にはオオカミがない以上説得力が今一つ欠け

る。

シカを追い払った時、豊かな林床の姿を取り戻した山林、それにより育まれる日本特有の美しい山、清らかな天然水、この姿を見てもらうことがオオカミ導入を理解するには最も早道だ。

私はこれをもって、オオカミ再導入の運動としたい。